片づけ

小林守城

I

身軽になって風のように
旅に出たくなったら
片付けはやめることだ
殆どのものはいらないものばかりと
自分を身限ればいい
それだけ身限ればひとつの悟りだ
あとは誰が片付けようと
よろしくな　おれの知ったことかと
おっとり刀で出て行くことだ

ふるさと離れて花いちもんめ
卑怯者ではなかったという
一枚の証明書を持って

II

テラスの窓際で見つけてしまった
小指ぐらいの夜の訪問者
あれから数日は経っているはずだ

そのしなやかな弦のような肢体
あどけない青ガエルのミイラを
そこに新たな執念の思い出を見て
捨てるわけにはいかなくなった
タイ人から頂いた
蓋つきの高価そうな茶碗を骨壺にして
少し煌びやかに飾っておこう

忍びない驚きを見つけた朝
ギャギャギャ　ぎゃぎゃぎゃ
啼いたであろう
そんな小さな生きものの
固唾をのんだ
詩が書けますように

Ⅲ

どこかで　いのちを選別して片づけ始めると
いのちの負の連鎖が始まった
戦争はどこまでも続く難民を生む

いま　シリア難民を見過ごすな
簡単に片づけはできないことだ
みんなの反省や謝罪が残した
有史以来の人類の
平和と人権なんだから
絆はグローバルに広がり
地球生きもの圏へひろがっている

Ⅳ

古希を過ぎておのずから
片づけを考えるようになってきた
知らなかった流行語「断捨離」は
やましたひでこさんの造語として
片づけの意味を商標登録されたものだ

ポール・エリアールの言葉を引用して
「片付けとはおのが人生を
歳月の中で組織することだ」
と言ってみたり
「言葉の断捨離
そこに詩が生まれる
詩人は言葉のダンシャリアンである」
などと言いまわして新たな片づけの
もの・こと・ことばを撒き散らしてみると
結構楽しいものだが
やがてふたたび草臥(くたびれ)てくるのだった